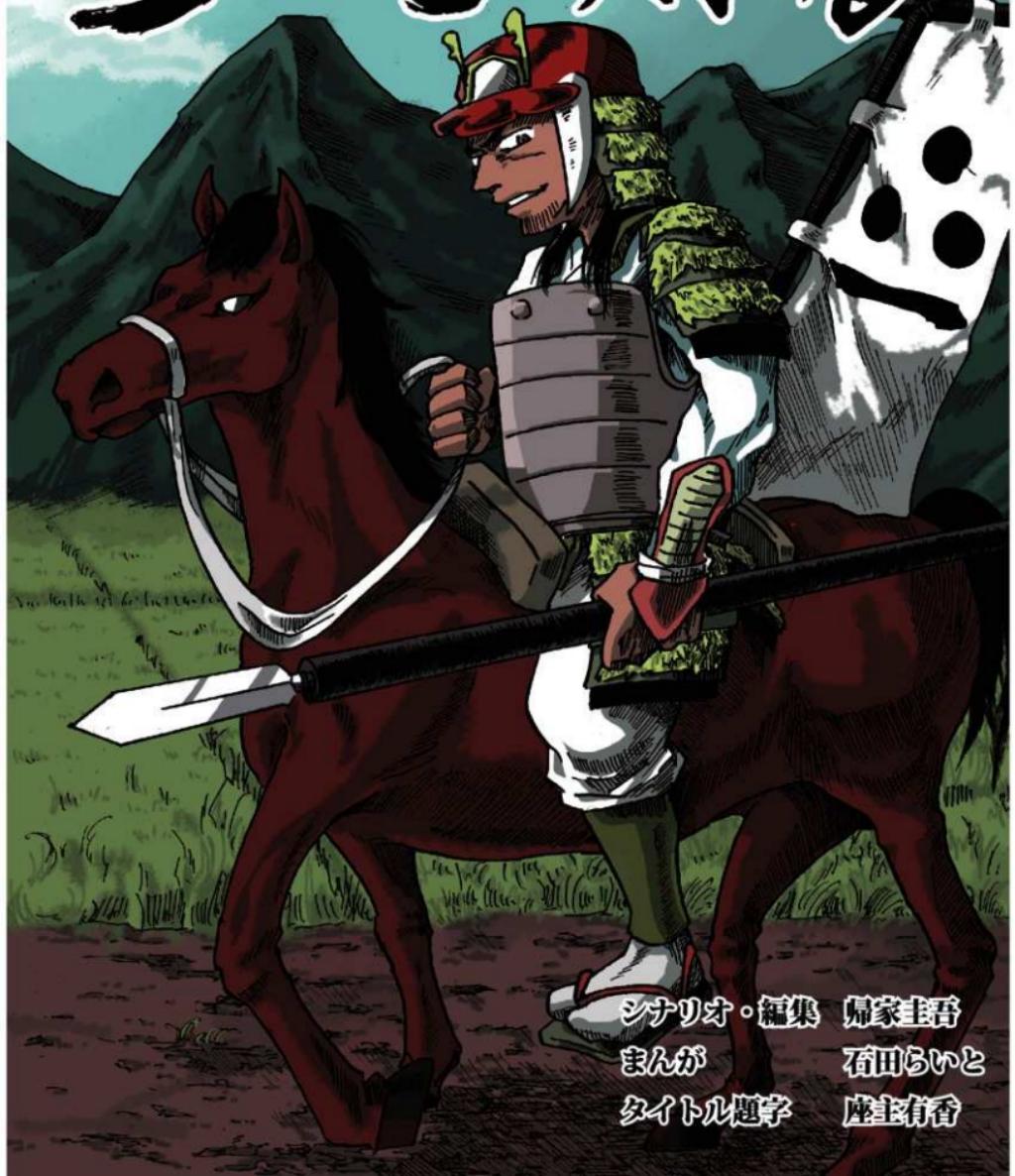


天地を駆けろ



シナリオ・編集 帰家圭吾
まんが 石田らいと
タイトル題字 座主有香

目関図

馬氏



えま ときもり
江馬時盛

親子

兄弟



えま てるもり
馬輝盛



えま のぶもり
江馬信盛

懇意

武田氏



たけだしんげん
武田信玄

家臣



おふ さぶろうひょうえのじょう
飯富三郎兵衛尉
やまがたまさかげ
(山県昌景)

人質

懇意

上杉氏



うえすぎけんしん
上杉謙信

ライバル

人物木

三木氏



みつきよりつな

三木自綱

あねがこうじよりつな

(姉小路頼綱)

家臣



うしまるちかまさ

牛丸親正

江

あそや なおもり
麻生野直盛

親子



あそや よしもり

麻生野慶盛

江

同盟

織田氏



おだ のぶなが

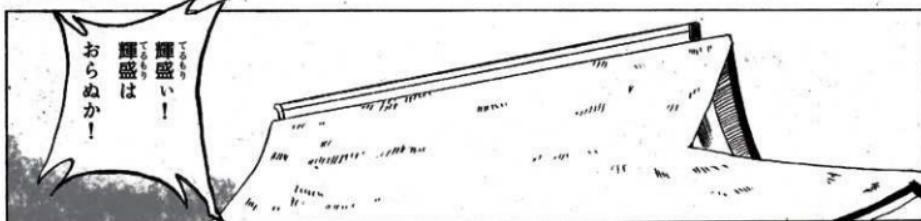
織田信長



飛驒国でも守護・京極氏の
権力が弱まり、各地の豪族
が力をつけてきた



時は戦国時代
室町幕府は衰退し、
全国各地で戦国大名が台頭



輝盛！
輝盛は
おらぬか！



何故、ワシの
言つことが
聞けぬのじや

お言葉ですが
父上は判断を
みます
見誤つております

十五代当主
江馬時盛

この先、
上杉方につくべきで
ござります

なにを！

天文二十二（一五五三）年
越後国の上杉謙信と甲斐国
の武田信玄とが戦を始めた
世に名高い
「川中島の決戦」である

戦国時代を代表する両雄
から援軍を得て飛騨統一を
目指す為、飛驒の豪族たち
は上杉派・武田派に分かれ
て争っていた

昆

また天下統一を目指す
一人にとつて飛驒国は
日本海と太平洋をつなぐ
重要なルートでもあつた

父・時盛は
（たけだは）
武田派だったが――

ところが、永禄七
（一五六四）年

これ以上、上杉の
好きにさせん

飯富三郎兵衛尉
(後の山県昌景)

もはや
これまでか
武田の飯富三郎兵衛尉
の名将・山県昌景) が飛驒国
へ攻めてきたのである

武田・時盛は、武田氏への
忠誠を示す為に、二男
信盛を人質として、武
田に献上したのである

輝盛は上杉派だった
同じ上杉派の三木氏と
手を組み度々、時盛と
小競り合いをしていました

後はお願
いいたします



武田氏は、江馬氏を先陣
にして越中（富山県）に
攻め入り松倉城主・椎名
氏を擊破



これで不本意ながら時盛と
共に武田氏に下るのであつた



天正三（一五七五）年、

ながのたたかひの長穂の戦いでは火薬弾を使い
むいて無敵と呼ばれた武田騎馬隊を圧倒









こうして輝盛は
江馬家十六代当主と
なつたのである



二男・信盛が第二次
高天神城の戦いにて戦死

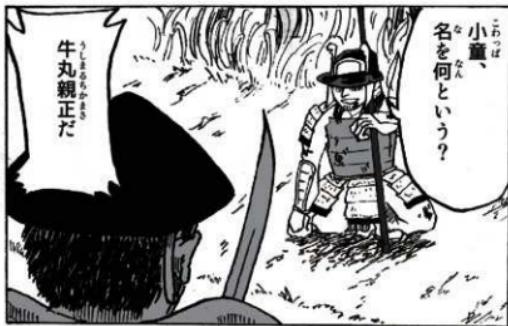






八日町
(高山市国府町)
にて
両雄が激突





あとがき

「漫画『天地を翔ける』制作にあたつて」

帰家
圭吾

一 漫画「天地を翔ける」について

(一) 漫画制作を始めるきっかけ

この度、漫画「天地を翔ける」を制作させていただきました。当初、江馬氏館跡庭園をもっと多くの人たちに知つてもらう為の利活用方法を検討する会議で、江馬氏の漫画を制作したらどうかと提案させていただきました。

というのも江馬館を訪れる方々は、①史跡巡りをしたり歴史研究調査をしたりしているような上級者、②日本史、特に戦国時代が好きな中級者、③歴史にあまり興味がないけど道の駅から近いから何となく訪れてみた初心者、の大きく三つに分けられると思います。予測ではありますが、来場者は③、②の順番に多く、①に至つては握りではないかと思います。上級者の方には、江馬館の魅力や価値などを充分理解していただけると思いますが、残りの方に理解してもらうことはとても難しいことです。

(二) 史実、伝承、物語について

いざ江馬輝盛を主人公にした漫画のストーリー制作を開始したのですが、すぐに壁にぶつかるようになりました。江馬輝盛は敗戦の将で史料が乏しく、史実として残っているのは、上杉武田に分かれ父と対立したことや八日市の戦いで討ち死にしたことぐらいでした。「史実」とは、史料・歴史文書・定説と合意などから、歴史上の事実とされている事柄です。江馬氏に関する資料や文献はあるのですが、史実と認定されるのは難しく、あくまで伝承や物語という扱いになります。

かといって史実だけでは、味気のない作品になってしまいます。様々な文献や資料を参考に、歴史の本筋を外れないよう注意しつつ、多くの人に楽しんでもらえるようなストーリー構成を学芸員に相談しながら考えました。異論やご指摘もあるかとは思いますが、江馬輝盛を主役とした物語として、ご覧いただければ幸いです。

(三) タイトル「天地を翔ける」について

江馬輝盛は、武田、上杉、織田などの戦国時代を代表する大名に開まれながらも、情勢に応じて味方に付く相手を変えながら生き抜いて飛躍統一を目指しました。武田・上杉の両雄のイメージとして「天地」、飛驒の「飛」の文字から「飛翔」をイメージして「天地を翔ける」というタイトルを付けさせていただきました。

また地元に住む子供たちに、自分の町のお殿様はこんな人だった

私自身、元々戦国時代が好きで企画したのですが、文献などを読む中で初めて知ることも多く、歴史を学ぶことの面白さを改めて体感できました。皆さまにも、漫画「天地を翔ける」を読んで江馬氏や郷土の歴史に少しでも興味を持つていただければ、これほど嬉しいことはございません。

結びに、漫画制作に関わってくださった皆様に感謝を申し上げて、あとがきとさせていただきます。

二 戦国あとがきうわさばなし

(一) 東町城跡（神岡城）

東町城は、作中に出てくる武田の家臣、山県昌景が越中侵攻の拠点として江馬氏に築かせたと言われています。現在の神岡城は、昭和四十五年に三井金属鉱業株式会社が神岡鉱業創業百周年を記念して、現存する石垣に模擬天守を建てたものです。

(二) 薪能「藤橋」

薪能「藤橋」は、江馬時盛と妻の明石が輝盛の策略により殺され、成仏できない明石の靈を一人の僧が夜通し経を読み成仏させ、明石が御礼に舞を披露するという江馬氏を舞台にした物語です。

(三) 江馬輝盛の墓と江馬殿切腹石

高山市国府町に安国寺の僧が建てたという輝盛のお墓があります。また輝盛の息子、江馬時政が父の死から三年後、金森長近の軍に参加し、三木氏を倒し父の仇を取りますが、領土を返してもらえませんでした。そのことに不満を抱き、一揆を起こしますが失敗し、父のお墓と同じ場所で切腹しました。その時に腰かけたという石があります。その石に触ると災いが起きるそうです。

(四) 十三墓峠（大坂峠）

八日市の戦いの後、江馬氏の重臣河上縫殿助など十三人の家臣が後を追つて死んだとされ、農民たちが墓を慰める為、お墓を建てたと言われています。

(五) 江馬貞盛の墓と大石

作中には登場しませんが、江馬貞盛という輝盛の弟がいました。輝盛とは不仲で、殺害されるのを恐れ能登へ逃亡する最中に笈破地区にて凍死して墓が建てられました。その時、飼っていた愛犬が貞盛の死を悲しみ鳴き叫ぶうちに石になつたという大石があります。その集落は大石村と呼ばれ、その後、伊西村となつたといいます。

(六) 江馬氏と鉱山

神岡の鉱山は、輝盛の死後、金森長近の命令で茂住宗貞が採掘したという史料があり、鉱山と江馬氏の関係性を示す資料がありません。しかし江馬氏は戦で多く兵を出したという記録もあり、それを賄う財力を考えると、すでに採掘をしていたのかもしれません。

(七) 金森重勝

高山藩二代目藩主の金森可重の側室で五男・重勝の母が江馬輝盛（または河上縫殿助）の娘という説があります。重勝は、父と共に大阪の陣に出陣し、その後、高原郷三千石を分与され、旧神岡工業高校の敷地内にお屋敷があつたそうです。もしそうなら孫の代で、念願の高原郷に戻つてこれたことになります。

【参考文献】

神岡のむかし話

川口半平『濃飛戦国武将伝』

江馬三枝子『飛驒の民話』
葛谷鮎彦『中世江馬の研究』